ONKYO

アンプ内蔵デュアルドライブサブウーファー

SKW-305

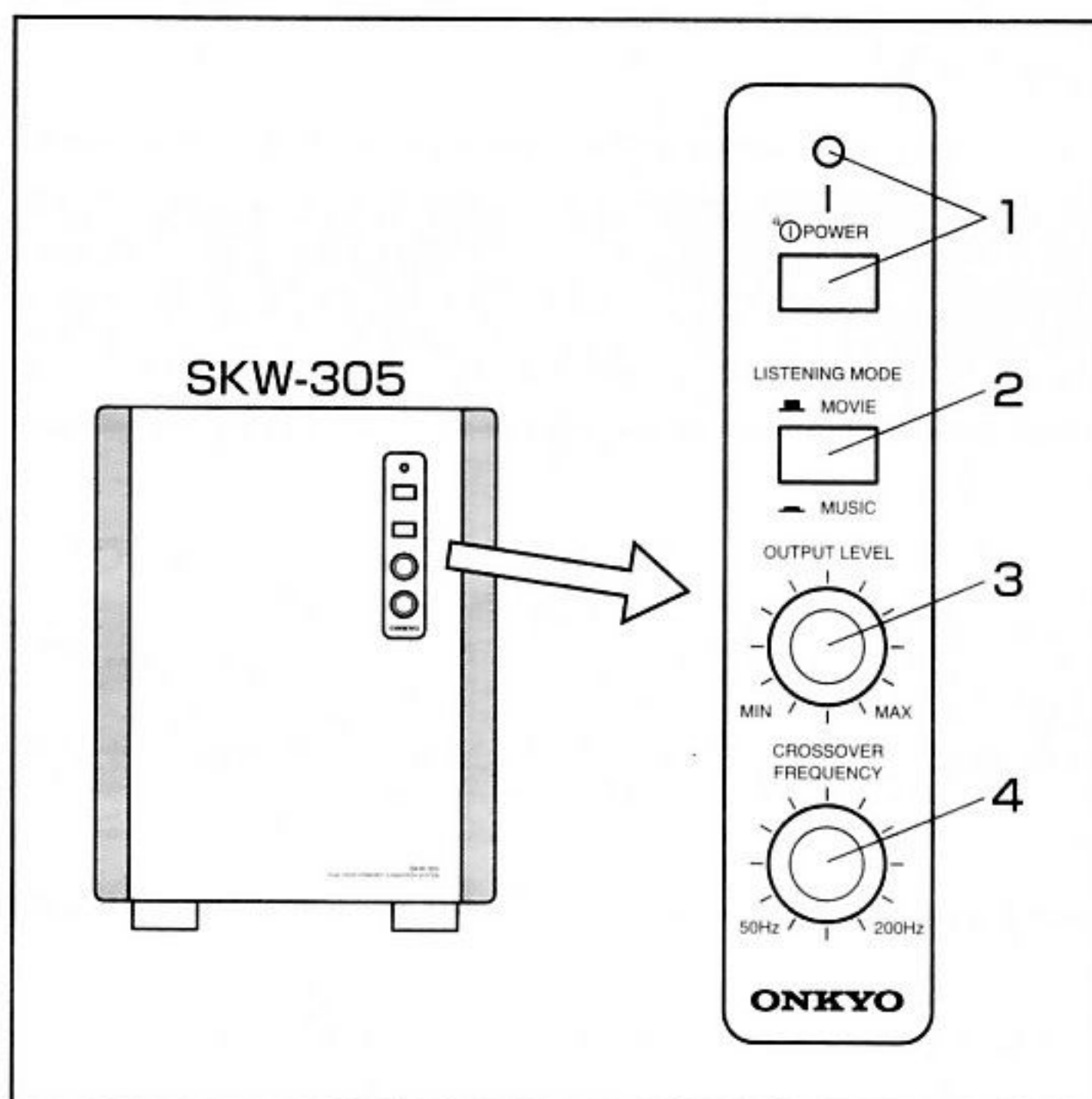
取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に
保証書とともに大切に保管してください。

特長

■ 本機は、通常のスピーカーシステムでは再生できない超低音の音域を、コンパクトなサイズから想像できないほどリアルに再生する超低域再生専用アンプ内蔵サブウーファーシステムです。
■ L / R ミキシング回路およびカットオフフィルターを内蔵していますので、お手持ちのシステムに本機を加えるだけで、大型フロアシステムに匹敵する低音を手軽に実現することができます。
■ MOVIE/MUSICのモード切り換えができますので、ステレオ再生だけでなく、A/Vシステム用としても最適な効果が得られます。

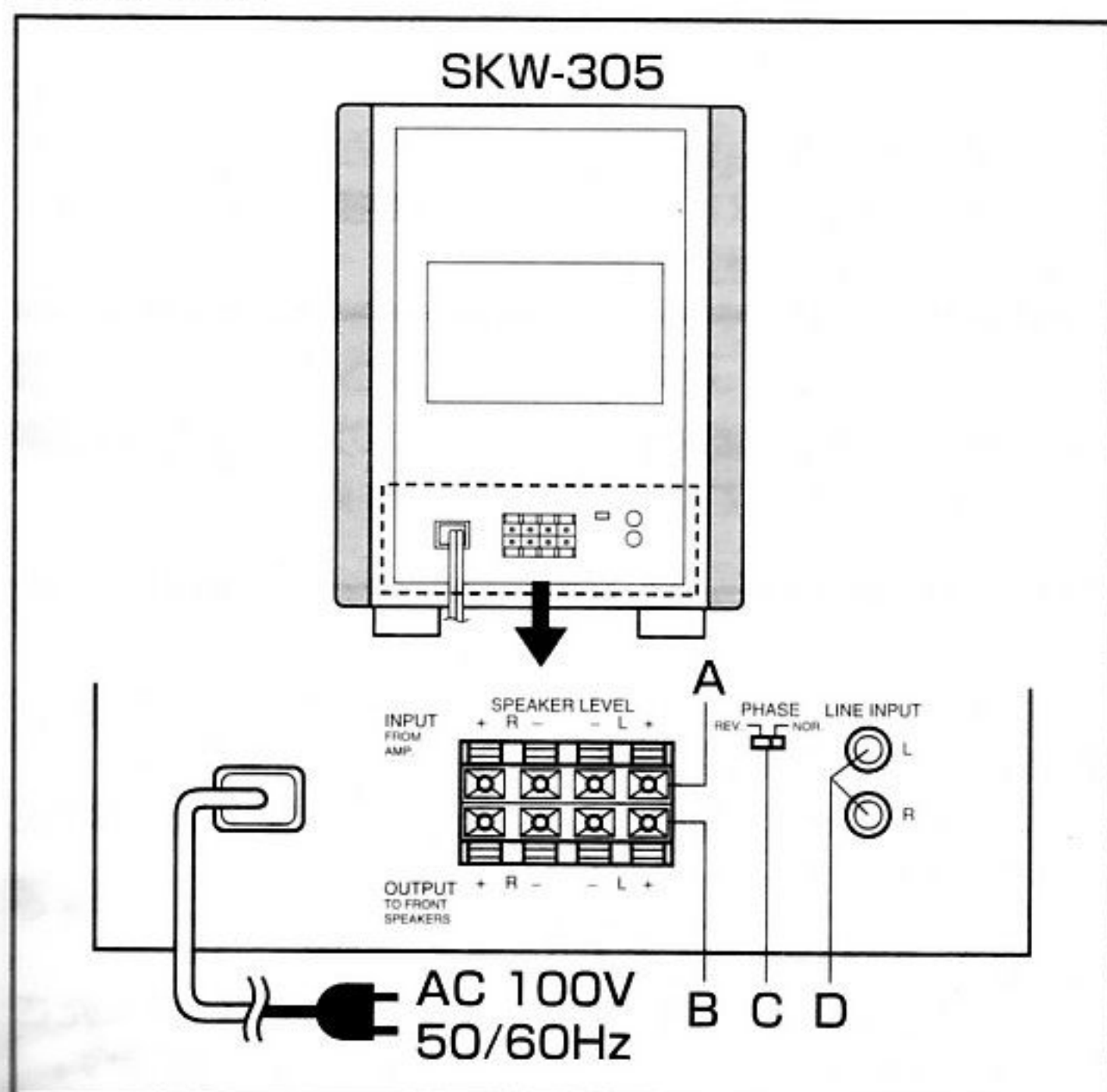
各部の名称と働き

■前面パネル

1. 電源スイッチ（POWER）およびインジケーター
押すと電源が入り、インジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れ、インジケーターも消灯します。
赤色：スタンバイ状態、**緑色**：動作状態を示します。

2. モード切り換えスイッチ（LISTENING MODE）
MOVIEポジションでは映画、MUSICポジションでは音楽を楽しむのに効果的な周波数特性が得られます。もちろん、好みにより表示にこだわらず切り換えてお楽しみいただけます。

3. 音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）
スーパーウーファーの再生音量を調整するツマミです。

4. クロスオーバー周波数調整ツマミ（CROSSOVER FREQUENCY）
高域をカットする周波数を変えるツマミです。組み合わせるスピーカーシステムの低域再生周波数範囲に合わせて、50Hz～200Hzまで連続的に変化できます。

■背面パネル

A. スピーカーレベル入力端子（INPUT FROM AMP.）
アンプのスピーカー出力端子と接続する端子です。

B. スピーカーレベル出力端子（OUTPUT TO FRONT SPEAKERS）
Aの端子に入力された音が出力されます。

C. 位相切り換えスイッチ（PHASE）
本機の位相を反転させるスイッチです。
通常は「NOR.」の位置が標準ですが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、「REV.」の位置にセッティングした方がよい場合があります。
実際にお聞きになり聴感上、低音が出る方に切り換えてください。

D. ローレベル入力端子（LINE INPUT）
アンプなどのサブウーファー出力やプリアウト出力を接続する端子です。

接続と調整のしかた

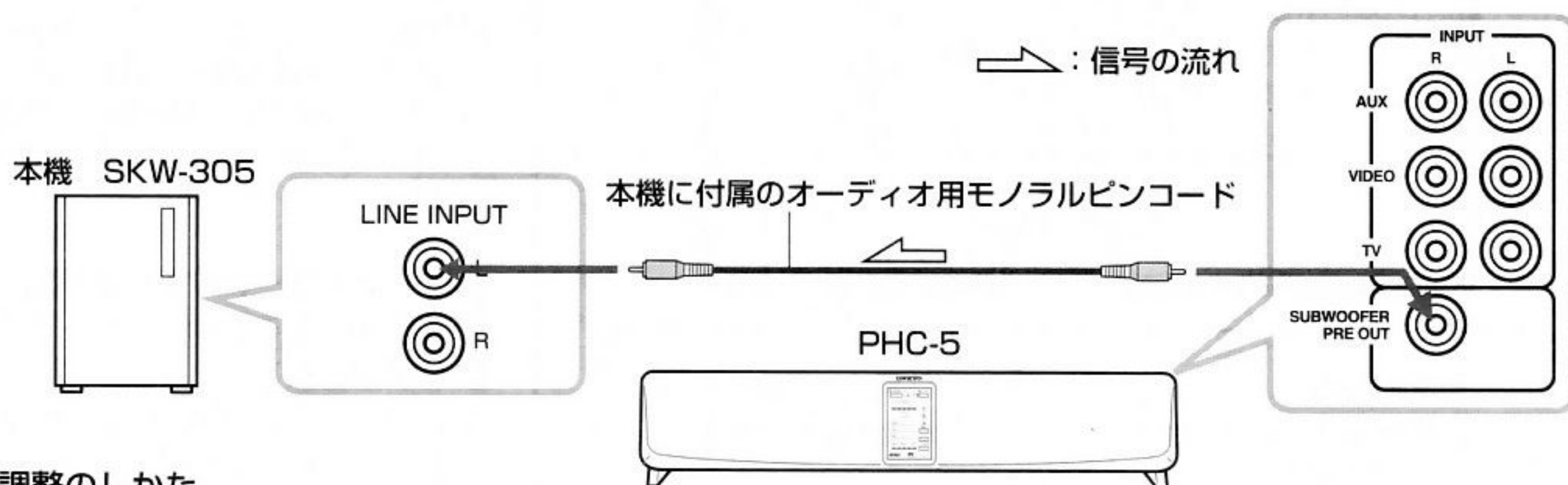
安全のため全ての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

PHC-5用サブウーファーとして使用する場合

■接続のしかた

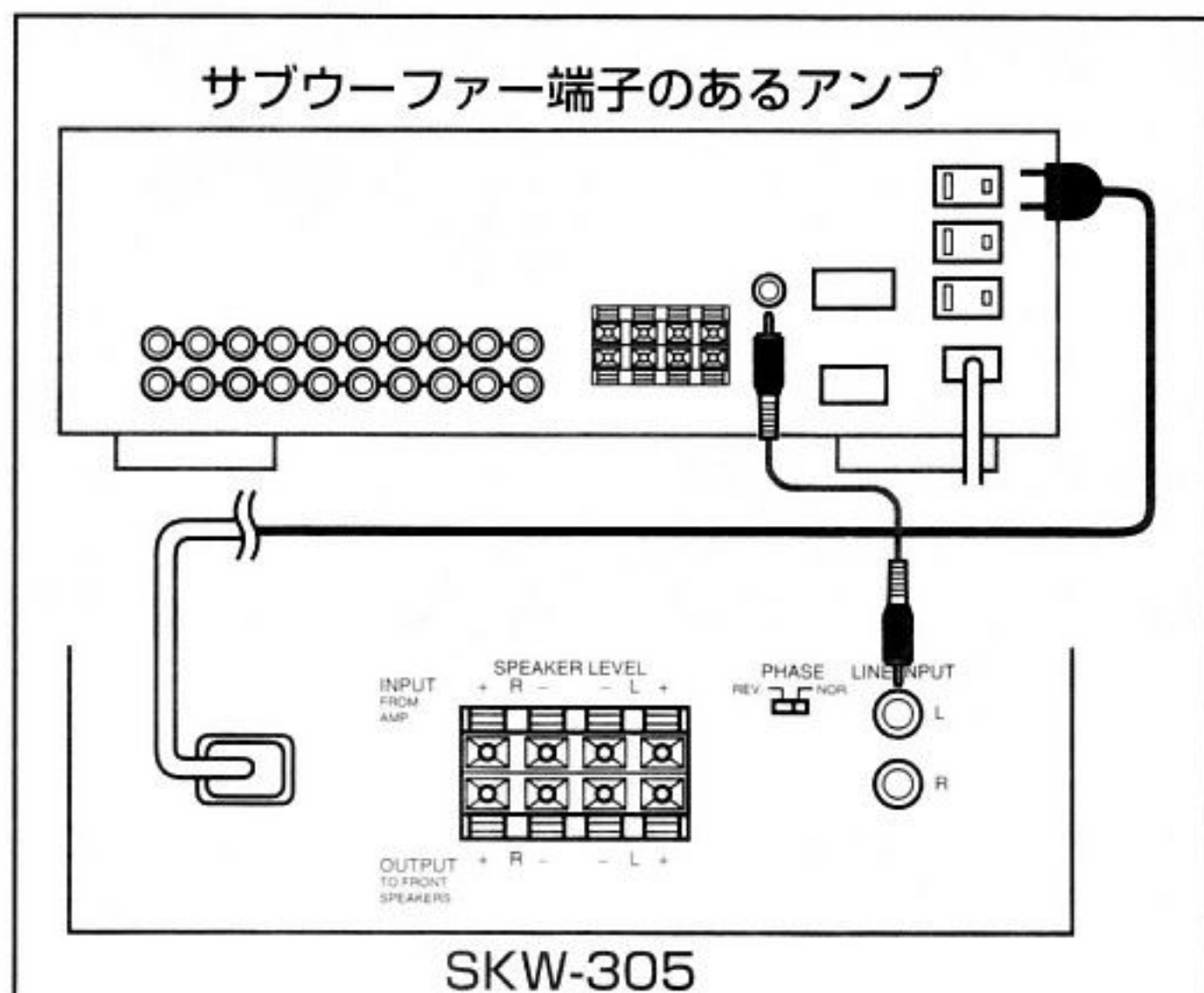
付属のオーディオ用モノラルピンコードを使用してPHC−5のサブウーファープリアウト端子（SUBWOOFER PREOUT）と本機のローレベル入力端子（LINE INPUT）のLまたはRのいずれか片方とを接続します。

■調整ツマミのセッティングのしかた

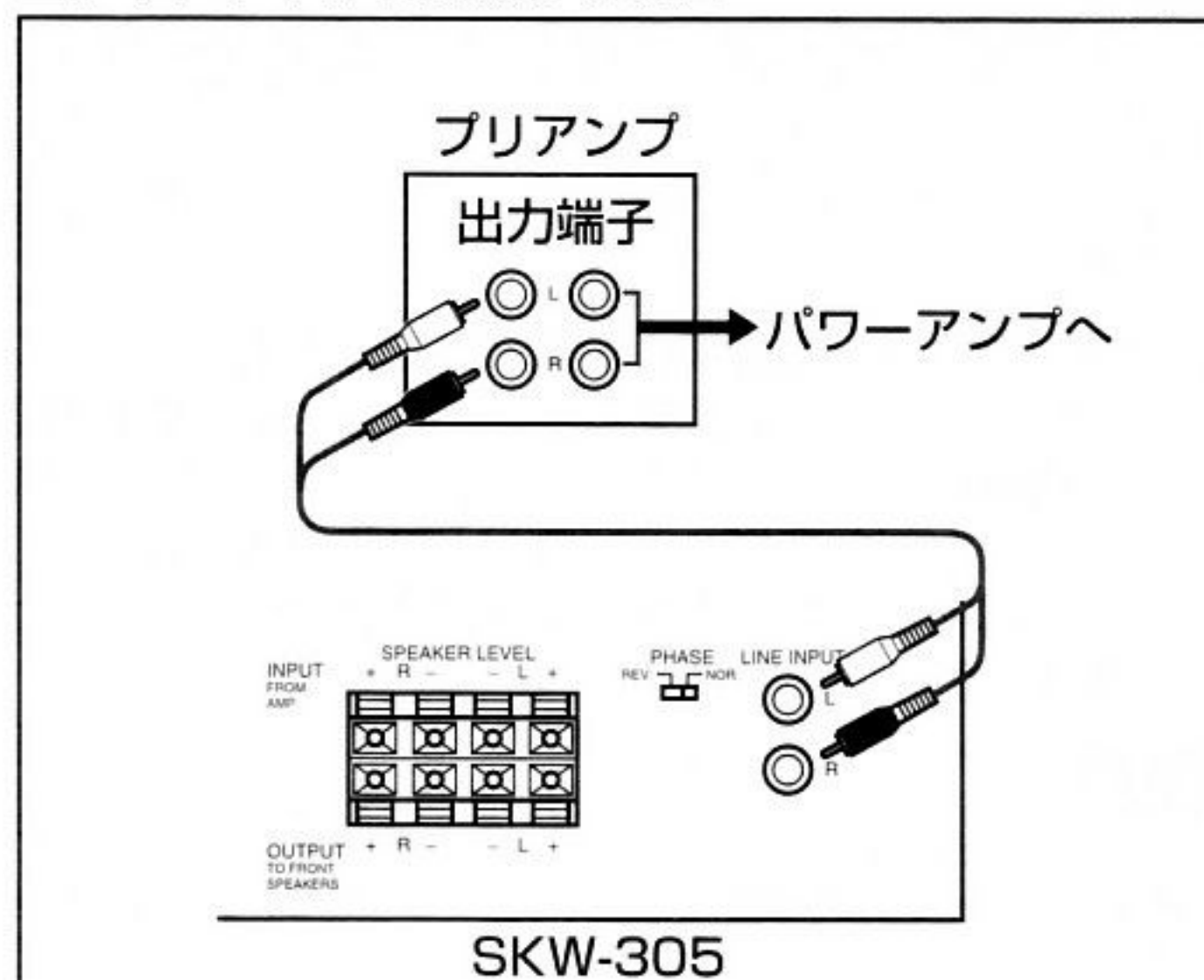
- モード切り換えスイッチはMOVIE（▬）にセットします。
- 音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）は時計の3時方向にセットします。
- クロスオーバー周波数調整ツマミ（CROSSOVER FREQUENCY）は時計の3時方向にセットします。
- 背面の位相切り換えスイッチ（PHASE）はNOR.にセツトしてください。

■調整のしかた

PHC−5はサブウーファーへの出力レベル調整をPHC−5本体のリモコンで行うことができます。
視聴位置でPHC−5に付属しているリモコンを使ってレベル調整をしてください。
上にあげたツマミのセッティングを基本に、好みに応じて調整してください。

一般的なシステムに組み合わせる場合

■サブウーファー(スーパーウーファー)端子のあるアンプから接続する場合

ご注意

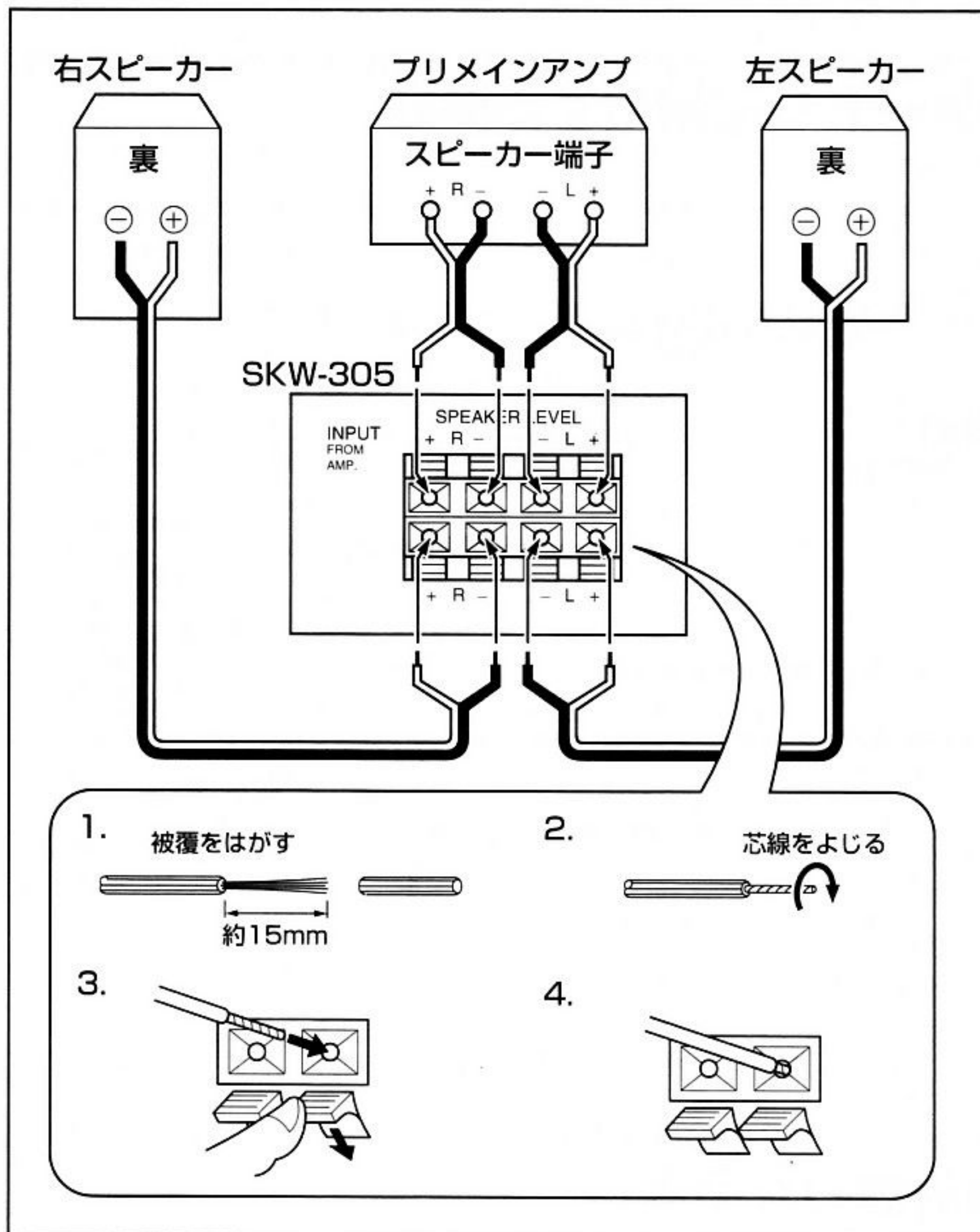
サブウーファー端子のあるアンプから接続する場合、アンプの出力はモノになっていますので、本機のローレベル入力端子(LINE INPUT)のLまたはRのいずれか片方に接続してください。

■プリアンプから接続する場合

ご注意

一般のプリアンプから接続する場合は、LR(左右)とも接続してください。この場合、出力は2系統必要です。

（次ページへ続く）

接続と調整のしかた（つづき）

■スピーカー端子から接続する場合

1. 市販の、あるいはお手持ちのスピーカーコードを使用して、本機のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
2. 左右のスピーカーは本機のスピーカーレベル出力端子に接続します。

ご注意

- スピーカーコードの＋/－、L(左)R(右)を間違えないように確実に接続してください。＋/－を間違えますと低音感が損なわれます。
- 本機のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、本機のスピーカーレベル入力端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。

スピーカーコードのつなぎかた

1. 芯線を残して15mmカットする。
2. 芯線部をよじる。
3. スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込む。指を離すとレバーが戻ります。
4. コードを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

ご注意

- スピーカーコードの接続は、芯線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。ショートしたまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。

■クロスオーバー周波数、音量調整のしかた

サブウーファーを設置する部屋の状況や組み合わせるスピーカーの種類に応じて、クロスオーバー周波数と音量の調整を行ってください。スピーカーレベル入力端子を使用した場合、音量調整ツマミの中心付近で一般的なスピーカーと音量バランスがとれるようになっています。また、超低音は刺激が少ないためつい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめぐらいがちょうど良いバランスになります。（過大入力防止の点からもおすすめします。）

ご注意

過大入力が入らないようにご注意ください。接続するアンプによってはスイッチ類を切り換えるとき、ノイズの発生する事があります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作するときは、ボリュームを一旦絞ってから切り換えるようにしてください。

♪音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

取り扱い上の注意

■設置について

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。また、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。故障の原因になることがあります。
- 本機に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。本機だけでなく、接続しているアンプが故障する原因となることがあります。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- 本機は立てた状態で使用されるよう設計されていますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばで本機を使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてお使いください。

■使用上のご注意

- 本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。
  1. オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  2. ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音（抜き差し時は必ずアンプの電源を切ってから行ってください。）
  3. マイク使用時のハウリング

ご注意

アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音が発生する場合があります。
これは、スピーカーユニットの限界を超えた時に発生する「ばた付き」が起こっているためで、故障ではありません。
しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

- 本機は左右の側面にスピーカーがついています。壁や物でふさがないよう、10cm以上あけるようにしてください。
- 本機は置く場所により効果が大きく変わります。
  一般的に部屋の隅に設置するのがもっとも効果的です。

■防磁設計について

本機のスピーカーユニットは、（社）日本電子機械工業会（EIAJ）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、カラーテレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色ムラが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合は、本機をさらにテレビから離してください。また近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には本機との相互作用により、テレビに色ムラが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■セットのお手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

故障かな？と思ったときは

本機が正常に作動しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処置をしても直らないときは、電源プラグをコンセントから抜いて、「お名前」「おところ」「電話番号」「セット型名（SKW-305）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	・電源プラグの差し込みが不完全。	・電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	・音量調整ツマミが最小になっている。 ・入力ピンコードがはずれている。 ・入力スピーカーコードの接続が不完全。 ・再生音量が小さすぎて、オートパワーオンにならない。	・適当な音量でご使用ください。 ・入力ピンコードを正しく接続してください。 ・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・適当な音量にしてください。
音が小さい。	・入力スピーカーコードの接続が逆相になっている。 ・ソースに超低音が入っていない。	・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・超低音の入っているソースでお楽しみください。
ブーンというハム音が入る。	・ピンコードの差し込みが不完全。 ・外部のリーケージフラックス（テレビ等からの誘導雑音）	・ピンコードをしっかり差し込んでください。 ・雑音源より離してください。

アフターサービスについて

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、オンキョーサービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(SKW-305)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、またはオンキョーサービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。
性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：

仕様

形式	アンプ内蔵デュアルドライブ型
用途	超低域再生専用
再生周波数範囲	25Hz～200Hz
クロスオーバー周波数	50Hz～200Hz(可変)
最大出力	50W(EIAJ・6Ω)
入力インピーダンス	スピーカー入力　4.9kΩ ライン入力　12 kΩ
入力感度	スピーカー入力　3.2V ライン入力　120mV
使用スピーカー	16cmウーファー2本
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	65W
外形寸法(W×H×D)	285×381×347mm
質量	11.5kg
その他	オートパワー：ON/OFF モード切り換え：MOVIE/MUSIC 防磁対応(EIAJ)

※定格および、外観は予告なく変更することがあります。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

オンキョーサービス網一覧表

サービスならびに製品についてのお問い合わせ、あるいはご使用上、不都合な点が生じました場合には、お買い上げの販売店またはもよりのサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

～　お客様にお願い　～
サービスご連絡の前に今一度、この取扱説明書をよくご覧いただき、お取り扱い方法をご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

札幌サービスステーション	☎011-747-6612	〒001-0028	札幌市北区北28条西5-1-28　第二松浦ビル 1F
仙台サービスステーション	☎022-297-0571	〒984-0051	仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル　1F
大宮サービスステーション	☎048-651-8612	〒330-0034	大宮市土呂町2-29-2　高安ビル　1F
宇都宮サービスステーション	☎0286-34-4307	〒320-0831	宇都宮市新町2-7-7
東京サービスセンター	☎03-3861-8121	〒111-0053	東京都台東区浅草橋3-8-5　31山京ビル　3F
横浜サービスステーション	☎045-322-9342	〒220-0072	横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
国立サービスステーション	☎042-576-1960	〒186-0011	国立市谷保7096番地
名古屋サービスステーション	☎052-772-1229	〒465-0013	名古屋市名東区社口1-1001
大阪サービスセンター	☎06-6576-7620	〒552-0013	大阪市港区福崎2-1-49
兵庫サービスステーション	☎0794-83-7408	〒673-0415	三木市府内町2-5
広島サービスステーション	☎082-262-3315	〒732-0057	広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	☎087-868-5662	〒760-0079	高松市松縄町44-8　西原ビル1F
福岡サービスステーション	☎092-418-1357	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

※ 住所、電話番号は変更になる場合があります。　D

ONKYO

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

アフターサービスのお問い合わせ先:
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎06(6576)7620

http://www.onkyo.co.jp/

CAT-SKW305JA

G9901-2